

平成 2 6 年度の主な事業報告

社会福祉法人 バプテスト心身障害児（者）を守る会

社会福祉事業

2013 年度末の第 3 回評議員会、第 4 回理事会で定款の変更に伴い、2014 年度より評議員定数を増員し 23 名と定め（現員 22 名）、また監事等に新たな役員を選出し新たな体制で事業運営にあたった。事業収支についてはほぼ予算通りの決算見込みとなった。また 2013 年度後半からの取り組みであった在宅支援プロジェクトへの支援献金については、全国より 2014 年度合計で約 1,431 万円の献金をお捧げ頂き、昨年に続いて 1 年間の目標額 1,000 万円を大きく超えて達成。法人および久山療育園関係者一同深く感謝するものとなった。

「在宅支援センター」建築は、2014 年 5 月 23 日に建設用地に関する農地転用と開発許可が交付されいよいよ着工の運びとなり、6 月 6 日関係者に列席いただき起工式が持たれ、その模様は西日本新聞にて報道された。また、8 月から同新聞紙上で連載された特集記事「とまり木どこに」では、宮崎信義センター長のインタビュー等当施設関係者が多く登場し、在宅重症児者の存在がアピールされた。

8 月～9 月にかけては福岡県福祉労働部障害者福祉課が開催した「老健施設職員による短期入所受入のための医療的ケア研修」の実施を、企画段階から県と協働して推進した結果、その初年度となる 2014 年度に、県下四つの重心施設が協力して講義と研修を開催、述べ 50 名の老健施設職員が受講の運びとなった。

「在宅支援センター」に期待が寄せられている一方で運営面における厳しい対応が求められることとなった。「重症者ホームひさやま」の開設に伴い 2015 年度の予算編成時に呼応して人件費率の大きく上昇する事が明らかとなり、年度後半の総務委員会で継続して協議を続けた。学校訪問や説明会等の開催を強化して行った結果、介護職を中心として新事業に必要な人材は開設前に無事に確保されたが、今後、人件費上昇をどこ迄抑え、堅実な施設運営が出来るかが、長期に亘る課題となる。

理事長 山田 雄次